

秋田稔りと 信仰の里 コース

三浦家住宅

天徳寺

如斯亭

里の家
(旧大宮家住宅)

総墓

筑紫森岩脈

秋田市河辺
農林漁業資料館

三浦家住宅

【秋田市指定有形文化財】

三浦家は中世の豪族三浦氏を祖とし、藩政期は肝煎をつとめた豪農です。住宅は、秋田市東北部の金足黒川地区に所在し、集落のほぼ中央部、中世城館「黒川跡」跡の高台にあります。三浦家住宅の中心である主屋は、文久元(1861)年に建てられました。木造茅葺、平家建て、建物の両端を前面に突き出すこの地方独特の両中門造とよばれる形式です。江戸時代末期の農家としては東北地方で最大級の建物です。



天徳寺

【国重要文化財・県史跡】

天徳寺は山号を万固山と称し、曹洞宗に属する、秋田藩主佐竹氏の菩提寺です。最初は佐竹家当主が夫人を弔うために常陸国太田に創建しました。その後佐竹氏の国替に伴い金照寺山に建てられましたが焼失し現在地に再建されました。霊屋には歴代藩主とその夫人の霊牌が並んでいます。本堂・書院・山門・総門は国重要文化財です。



如斯亭

【県史跡】

如斯亭は、現在、建物とこれをめぐる庭園を指す名称として使われています。三代藩主義処の時に藩士大島氏が別荘を建て得月亭と呼び、五代義峰の時に藩に献上されました。九代義和の時に回遊式庭園ができあがり、如斯亭と改めました。遠州流の庭として県内に残る唯一の大名庭園です。



里の家(旧大宮家住宅)主屋

【登録有形文化財】

里の家は、旧雄和町銅屋地区の肝煎をつとめた大宮家の住宅です。明治15(1882)年の大火の後、明治17(1884)年頃に再建され、昭和62(1987)年に現在地に移築、復元されました。建物は、木造茅葺、平家建、寄棟造の大型の農家建築で、建物の正面右側に馬屋が突き出る中門造です。出入り口の上に繊細な格子をはめた椽窓があり、その上に曲面を上下に重ねた破風が特徴的です。



総墓

【秋田市指定史跡】

総墓は、大小数百の自然石を数段に積み上げた伊藤善左衛門一族一門の墓です。伊藤家は加賀国の落武者で相川地域を開墾後、水沢に定住したと伝えています。墓誌表面に「総墓」、裏面に「文政八乙酉中夏」(1825年)と刻まれています。



筑紫森岩脈

【国天然記念物】

この岩脈は、旧河辺町三内の標高391mの烏帽子のような形をした筑紫森にあります。幅100~200m、長さ400m前後のほぼ南北にわたって、流紋岩からなる柱状節理、板状節理の大岩脈が見られます。これらの節理は、火山岩が冷却し固まる時にできる柱状と板状の割れ目です。節理の断面は、五角形をしています。



秋田市河辺農林漁業資料館

旧河辺町三内字尼沢にある農林漁業関係の資料を中心に集めた資料館です。展示の目玉はドイツ製の発電機とスイス製の水車です。その他、樹齢300年の秋田杉の断面や動物類の剥製、当時の生活をしのばせるランプ・あんどんなどたくさん資料が展示されています。

